

みらい図書だより

発行：東京未来大学図書館

〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12 TEL: 03-5813-2540 (内線 1202) FAX: 03-5813-2529
URL: <http://www.tokyoumirai.ac.jp//library/> 印刷：上武印刷株式会社

図書館と私

エンrollment・マネジメント局次長 杉本 純 哉

このたび、本原稿の執筆依頼をいただき、改めて私自身が図書館を利用した記憶を遡ってみました。まず、はじめに思い浮かんだのは、幼少期の思い出。当時小学校の隣にあった町立図書館。今でも思い出すと、何かワクワクした記憶が思い出されます。図書館で本を借りる、ということが「特別なことで、毎回新しい本を手にとって持って帰ることができることを楽しみにしていたことが蘇ります。あの図書館独特のにおい。思い出とともに、あのにおいが鮮明に思い出されます。高校受験を前にしたときは、朝から図書館に行き、自習室で試験勉強に費やしました。振り返ると、図書館に行くだけで、勉強している気になっていたような気もします。

今では、我が子と一緒に図書館に行くこともしばしばありますが、私自身の幼少期と同じように、子どもたちがワクワクしながら本を選んでいる様子を見ると、当時の自分と重なります。

学生の頃は、レポート課題のたびに図書館に行き、先生から紹介された参考図書を探すために活用していました。当時は、どちらかというと図書館に行かなければならない、という意識の方が強かったように思います。

私自身、本を読むようになったのは、社会人になってから。

仕事において、自分に足りないものを感じ、インプット量を増やすことが必要と感じてからです。本から得られる知識が面白く、著者の様々な考えに触れることができる機会は、仕事をしていくうえで、今でも生きている要素が多くあります。「本を読むことの楽しさ」に気づくには、まずは自分から本を必要とすることからはじまり、欲していることに対しての新しい知識を取り入れることで「楽しさ」が生まれる、この読後感が必要なのだと感じています。もっと早くに私も本の楽しさに気づくことができれば良かったのですが、なかなか本に触れる機会が少なかったな、と後悔の思いです。「本から学ぶ」。今となっては、自分にとって特別なことではなくなりましたが、先に述べたように、自ら本を必要とすることが大切な一歩なのだと感じています。

最近では、仕事を終えて帰宅すると、小学生の娘が何度も国語の教科書を音読しています。何度も、彼女の音読を聞くたびに、文字が読めることの喜び、物語云々ではなく、物語に触れることの楽しさを感じているように思います。あの純粋な気持ちがいつまでも続き、本に触れることの楽しさを感じ続けてくれればな、と思うとともに、私自身も本に触れる楽しさを感じ続けたいな、と思っています。



ステイホームと本

こども心理学部 こども保育・教育副専攻長 横畑 泰 希

「ステイホームと本」というタイトルから想像するに、外出自粛期間中にいかに多くの「読書」をしたのか、という話を期待されているのでしょうか。この期間中、授業資料を作成するために多くの専門書には目を通しましたが、「読書」と呼ぶにはまったく違う感じがしています。期待に応えることができそうもなく、果たして途方に暮れているところです。

私の中の「読書」は、何といても小説です。ステイホーム期間中に小説を読んでいないことに気づき、今、本棚から思わず一冊の時代小説を手にしたところです。岡本綺堂『半七捕物帳』がそれです。ふと捲ってみますと、「十五夜御用心」という捕物話の中に浅草や押上など、割と本学に近い地名が登場してきます。

時代小説と言えば『鬼平犯科帳』や『剣客商売』の池波正太郎も好きな作家です。そういえば、『剣客商売』の主人公

秋山小兵衛は鐘ヶ淵の隠居生活、その妻のおはるの出身は関屋村。どちらも本学の両隣です。

馴染みのある土地の名前を聞くと、何かそれだけで安心感を覚えたりします。その風景を思い浮かべることできます。もちろん、その時代の風景は知らないにしろ、それを様々な想像できることも時代小説の楽しみの一つ、なのかもしれません。

新型コロナウイルス感染の波がどうなるか見通せませんが、外出自粛から解放されるのはまだまだ先のことでしょう。好きな時代小説の中で外出したつもりになり、時代を超えた風景を味わってみるのも、ステイホーム中の楽しみになるかもしれません。

さて、折角手にした『半七捕物帳』。このまま本棚に戻すのも、ちょっと野暮な話…ですね。

絵本あわせ

絵本の創作—絵本が生まれるまでを経験して
心理専攻3年 川端 智瑛

昨年、プレゼンテーション大会を通じて創作絵本の製作・頒布活動を行いました。“5月9日がアイスクリームの日”であることを、子どもを通して認知させるという企画に基づくものです。私は心理専攻ですが、絵本が好きで日常的に読んでいたため、貴重な経験となりました。



活動中は絵本の奥深さを感じるばかりでした。絵本は本でありながらも、イラスト部分に文章以上の非言語メッセージを含ませることができます。そのため人物の配置や空間、色づかい、綴じ方までも、ターゲットに合わせ工夫する必要があります。このような手法の存在を初めて知る私にとって、本を読む面白さを損ねずに伝えたい情報を織り交ぜる作業は困難であり、簡潔さと心地よさを兼ねている絵本の凄さを改めて実感しました。難航するまま、先生方のサポートやメンバーの協力のもとになんとか完成した絵本ですが、子どもたちの「面白かった」という言葉には安堵と共に大きなやりがいを感じることができました。

触れることで、自然に自分の心の一部となって寄り添い続けてくれるものが絵本だと感じています。あの頃は何かを読んでいたかな…と、皆さんも再び絵本の世界に入ってみてはいかがでしょうか。

実習で使った絵本『おばけでんしゃ』

こども保育・教育専攻4年 亀井はるか
2月の保育実習で、2歳児に『おばけでんしゃ』を読み聞かせしました。この絵本は、シンプルなお話ですし、色鮮やかで、柔らかく描かれた登場人物たちが沢山描かれているので、楽しんでもらえるのではないかと思います。



『おばけでんしゃ』
(著：内田麟太郎、絵：西村繁男、童心社、2007)

「がたたん がたたん」と擬音語のフレーズが繰り返し出てくるので、子ども達も一緒に「がたたん がたたん」と言って楽しんでいました。「まもなく、〇〇駅」などを読むときには、実際の駅員さんの口調を真似て読んでみました。これがとても好評で、駅員さん口調で読むたびに笑いが起きました。読み聞かせの後、子ども達はしゃべり方を真似たり、電車ごっこをしたりして遊びに発展していました。

横長の絵本なので、子ども達に見えるように持つのが少し難しかったです。しかし、横長だからこそ、子ども達が指差しをしながらお友達と登場人物を探して楽しむ姿や、絵本を「がたたん がたたん」のリズムに合わせて揺らす工夫に繋がったと思います。

お話の長さもちょうどよいので、ぜひ読み聞かせをしてみてください。

子どもの頃に好きだった絵本『ねずみくんのチョコッキ』

モチベーション行動科学部3年 落合加央里

私は幼いころ、身体が弱く病院に通っていたのですが、その病院の待合室の本棚に置いてあり気になって読んでみたのが、この絵本との出会いです。ねずみくんのチョコッキというこの絵本は、ねずみくんのお母さんが編んでくれたチョコッキをだんだん体の大きな動物たちが着ていき、最終的にゾウが着てチョコッキが伸び伸びになってしまうというお話です。ねずみくんがかわいそうではありますが、クスリと笑えるお話です。久しぶりにこの本を調べてみると生誕45周年ということでねずみくんのチョコッキ展というのが開催されていました。私はとても長く愛されている作品なんだと感じました。



『ねずみくんのチョコッキ』
(著：なかえよしを、絵：上野紀子、ポプラ社、1974)

私の小学校では、保護者の方が定期的に朝、絵本を読んでくれる「読み聞かせ」があったのですが、そのときにもねずみくんのチョコッキを読んでくれて、とても嬉しかったのを覚えています。今はほとんど絵本を読む機会はなくなってしまいましたが、また絵本を読みたいと思いました。また今の子ども達はどんな絵本を読むのだろうと気になりました。

子育てと絵本

エンロールメント・マネジメント局 吉田 俊幸

絵本は、子どもと親をつなぐ貴重なツールです。絵本を通して、子どもは豊かな想像力を養い、言語能力を伸ばし、また、親子間での愛着・信頼の形成をしているのだな、と感じます。

私にはもうすぐ2歳になる息子がいます。寝る前には、自分が読んでもらいたい絵本を嬉しそうに持って来ます。ちなみに、その日の気分によって、母親と父親のどちらかに読んでもらいたいというリクエストがあり、父親が読み手として認定されない日もあります(笑)。

息子は、まだ文章を話すことはできませんが、お話は少しずつ理解しているようで、絵本の世界を楽しんでいます。絵の中のお猿に「おーい！」と手を振ってみたり、キリンが出てくると、急いでキリンのおもちゃを持ってきて「絵本と同じだね？」と言いたげに親に見せてくれたりします。話せないながらも共有したい想いが伝わってきます。絵本を通して、双方向にコミュニケーションを取り、子どもの心が成長している姿を見ることは、子育ての喜びの一つです。

子育てをするようになって、絵本の魅力に気づき、私自身も新しい世界が開けました。普段はあまり触れない方も、たまには図書館で絵本を手にとってみるのはいかがでしょうか。

おすすめの一冊

「これはぜひ！」先生方おすすめの一冊を紹介します。

● 野中 俊介先生 (こども心理学部心理専攻)

『催眠 完全版』松岡圭祐、角川文庫 (2008)

大学生のとき、往復で3時間あった通学時間に何をしようかと考えたとき、受験勉強を終えた時期であったということもあってか「小説を読みたい」と思いました。そして、「臨床心理士になりたい」と思い始めていた私が手に取った本がこの本でした。本書は、主人公の臨床心理士が専門知識を生かしながら事件を解決するというストーリーであり、もちろん読み物としてという意味ですが、カウンセラーへの関心を持てる本であると思います。



● 永井 伸人先生 (こども心理学部こども保育教育専攻)

『あそぶだけ！公園遊具で子どもの体力がグングンのびる！』

前橋明、講談社 (2015)

昨今は、子どもたちの外あそびの時間が減り、体力も落ちていきます。昔の子どもは、空き地や雑木林など、自然の中で走ったり、登ったり、転がったりしながら、体力・運動能力を高められました。

現代では、自然に代わる運動の場として、遊具の研究・開発がされています。あそび方のわからない子どもや保育者も増えています。この本では、遊具ごとに身につく12の力や心の育ちについて書かれており、身近な遊具を見直すことができる一冊です。

聞いて
みました。

執筆のあれこれ

藤後 悦子先生、井梅 由美子先生、
大橋 恵先生 (こども心理学部心理専攻)



『スポーツで生き生き子育て&親育ち～子どもの豊かな未来をつくる親子関係～』

(福村出版、2019)

問1 本のコンセプトは何でしょうか？

スポーツの最終的な目的は、「勝つ」ことではなく、あくまでも私たちの人生を豊かにすることだと伝えることです。また「スポーツ・ハラスメント」を予防し、子ども中心のスポーツ環境を作るという視点を盛り込んでいます。

問2 学生に読んでほしい点は何でしょうか？

将来、様々な立場で子どもたちと関わる時には、単に成果のみを求めたり、早期教育に走ったりするのではなく、子ども時代に必要な遊びや生活を大切にすること、そのことが競技力も含めた運動能力の向上につながるということを知ってほしいと思います。

問3 執筆で苦労なされた点はどこでしょうか？

親御さんに読みやすくということで色々Q&Aを考えたことでしょうか。子育てに正解はないので、どんなAにするか3人で悩みました。

問4 著書にかける思いをぜひお願いします。

子どもたちには勝利至上主義ではなく、人間性を豊かにするようなスポーツライフを送ってほしいと思っています。そのためには、周囲の大人たちがどのようにスポーツと向き合うか、また子育てではスポーツを通して子どもたちとどのように向き合うかを考えるきっかけとなってほしいと願っています。

高橋 一公先生 (モチベーション行動科学部)

『青年心理学 (現代に生きる心理学ライブラリ：
困難を希望に変える心理学 II-3)』

(サイエンス社、2020)



問1 本のコンセプトは何でしょうか？

「青年心理学」は、各論では新しい研究がなされていますが、テキストとして使える総論としての書籍は古いものが中心なので、近々の話題を入れつつ、本学の青年心理学担当の先生方が使いやすいものを目指してみました。

問2 学生に読んでほしい点は何でしょうか？

1章～3章は基礎的な内容で構成されていますが、4章、5章は現代の青年期の課題に即した内容にしてあります。やはり、青年期の心理的動揺について客観的な視点でまずは読んで欲しいと思います。

問3 執筆で苦労なされた点はどこでしょうか？

本学の青年心理学担当の小橋眞理子先生(通学)と池田和嘉子先生(通信)にお声がけさせていただき、執筆をお願いしました。編者として各章のボリュームや内容の重複を調整しながら編集作業を行い、両先生にご了解を得ながら加筆修正、削除を繰り返しましたが、自身の執筆分に加え本意を変えずに編集することの難しさを実感しました。

問4 著書にかける思いをぜひお願いします。

心理学の分野では新しい視点での書籍が増えている中、今回は原点回帰的な要素が強かったと思います。まずは網羅的であること、そして使いやすいことを課題にして編者としてかなり融通無碍に執筆・編集にあたりました。それだけにこのテキストを手にした学生さんには全章しっかりと読んで頂きたいと思えます。

大西 斎先生 (こども心理学部こども保育教育専攻)

『改訂版 法律学概要』(大学教育出版、2019)



問1 本のコンセプトは何でしょうか？

初学者に法律学を学んで頂くために、憲法・民法・刑法を分かりやすく説明させて頂いております。とくに憲法の人権に関わる面については、論争点の学説や判例を事例に即して丁寧に解説させて頂きました。これから本格的に法律の勉強を始める方や、大学の授業、公務員試験に対応できるように著述させて頂きました。

問2 学生に読んでほしい点は何でしょうか？

なぜ私たちにとり、法が必要かという点を理解して頂きたいです。また、法の体系を習得して頂き、憲法が法の頂点にあるということの理解を深めて頂きたいです。現在のコロナ禍において自粛要請しかできないのは、憲法には自由権が明記されておりますが、緊急事態条項はありません。それゆえ、自由権を制約する法律の改正に政府がためらうところがあるからです。今後憲法のあり方を一人一人が考えていく切っ掛けにして頂きたいです。

問3 執筆で苦労なされた点はどこでしょうか？

本著では、法学の基本概念や、憲法以外にも民法、刑法などを幅広く取り上げたのでいかにわかりやすく論述するかに意を注ぎました。

問4 著書にかける思いをぜひお願いします。

私たちは普段「法」とは無縁の生活を送っているように思っております。しかし、身の回りには沢山の法が網羅しております。人の物を盗まないでくださいというような禁止規定も多くあります。また、私たちの暮らしを守ってくれる法もあります。医師など特定の職業の規定や、食品の賞味期限の明記化など多くにわたります。また、交通事故の示談交渉などどのように対処するかなど身近なことも論述いたしております。いざという時、リーガルマインド(法的思考力)をもって解決していける能力を身につけてくださることを願っております。

● 杉本 雅彦先生 (モチベーション行動科学部)

『仕事に生かせる技術者の勉強法』中村義作、近代科学社 (2004)

私が大学院時代に読んだ少し古い本ですが、現在でも通用する多くのことが書かれているため、再読しゼミ生たちに紹介している本です。

いかに優れていても他人との和が取れない技術者は失格、生涯全てが勉強、効率的な勉強法を探すよりも努力で補う方が結局は効率的、いくら頭が悪くても人の3倍やれば成果は上がる、専門外の知識こそがアイデアの優劣の決め手の一つとなる、など技術者が一人前に成長していくためには何が必要か、本書はその答えを明快に与えています。

大学で勉強したとしても、それはその世界の入り口に立ったというだけの話であり、仕事として進めるのならば、更にそこから勉強が必要であることを思い知らされる一冊です。

● 園城 照子先生 (エンロールメント・マネジメント局)

『ポジティブ・チェンジ』メンタリストDaiGo、日本文芸社 (2015)

メンタリストDaiGoの『ポジティブ・チェンジ』は読みやすく、前向きな気持ちになれる一冊です。自分を変えるために必要なことは、考えることではなく行動を変えることである。「行動の大切さ」を心理学に基づきながら身近なこと、ものに置き換えながら紹介されている内容になります。

物事のとらえ方は様々な角度がありますが、すべてを前向きにとらえ活かしていくことや、変化を楽しめるようになる、そんな一冊です。



電子書籍アクセスランキング (2020/4/1 ~ 8/31)

順位	書名／著者名、出版社、出版年	アクセス数
1位	赤ちゃんの心理学／大藪泰 著、日本評論社、2013	100
2位	遊びにつながり！場面から読み取る子どもの発達／増田修治 著、日本保育協会 監、中央法規出版、2018	76
3位	1・2歳児の自己肯定感の土台を育む一泣いて笑って育ちあう16人の物語ー／芦澤清音・バオバブ霧が丘保育園 著、ひとなる書房、2015	69
4位	10の姿で保育の質を高める本／汐見稔幸・中山昌樹 著、風鳴舎、2019	56
5位	こどもがえがく・こどもがつくる／九州保育団体合同研究集会 編、かもがわ出版、2014	54
6位	子どもの摂食障害ー拒食と過食の心理と治療ー／傳田健三 著、新興医学出版社、2008	39
7位	絵は子どものメッセージー聴く楽しさ、響き合うよこびー／大阪保育問題研究会・大阪保育研究所 編、かもがわ出版、2014	30
8位	赤ちゃんは世界をどう見ているのか／山口真美 著、平凡社、2006	25
9位	親と子の生涯発達心理学／小野寺敦子 著、勁草書房、2014	24
10位	子どもはテレビをどう見るかーテレビ理解の心理学ー／村野井均 著、勁草書房、2016	23

※興味のある方は是非お読みください。

電子書籍の利用方法

①未来大OPACで検索



「eBook」のタブを開くと、電子書籍の一覧が表示されます。

②閲覧したい資料を選択



閲覧したい資料の「URL1」の欄をクリックすると、認証画面が表示されますので、ID/PWを入力します。

③Maruzen eBook Libraryの資料画面に移動



「閲覧」をクリックすると資料が表示されます。

閲覧を終了する場合は、必ず右上の「閲覧終了」ボタンで終了してください。

●図書館ホームページ (<https://www.tokyoumirai.ac.jp/library/>) にも詳しい利用方法が掲載されています。

東京未来大学における電子書籍の利用について

本学図書館では、2019年度より電子書籍が導入されており、現在432冊の本が学内外から利用できるようになっています。今回、私の担当科目である「発達生理心理学」において電子書籍を課題図書として利用しました。電子書籍について学生へアンケートを実施したところ、ポジティブな意見の人が25%、ネガティブな意見の人が40%、両方を併せ持つ意見の人が28%、特に記載のない人が7%でした。

ポジティブな意見としては「持ち歩かなくていいから、暇な時に読めてすごく便利。」「今回、大学に出向いて図書館で本を選ぶことができなかったわけだが、そのような状況でも大学にある本をネットで閲覧することができて、なおかつ使いやすいサービスであった。」「自分の調べてみたいワードを検索するとたくさん本が出てきたので、とても調べやすく使いやすかった。」といったものでした。

一方、ネガティブな意見として「紙の本より読みにくくて、大変だった。」「一定時間の動作がないと閲覧が切れてしまうことはわかっていたが、その時間が思った以上に短く、しかもその間に別の人に閲覧をとられてしまった。」「電子書籍がとても読みにくかったので、ネットで同じ本の紙媒体のものを購入した。」「自分のインターネットの環境が悪いのか、読み込みが遅かったり読み込めなかったりして、一冊読み終わるのに相当な時間がかかってしまった。」といったものでした。

アンケート結果から、電子書籍における検索のしやすさや、いつでもどこでも読むことのできる利便性といったメリットがある一方で、電子書籍の利用に慣れていないことで生じる不便さがあることが明らかになりました。私は、電子書籍を授業で活用する上で「電子書籍の利用のしかた」だけでなく、「電子書籍のより良い読み方」についても、学生に教授する必要性を感じました。いろいろなご意見はあるかと思いますが、コロナ禍によって紙の書籍を利用することが難しい昨今、ぜひとも電子書籍を活用してほしいと願っています。

(小谷)

編集後記

本誌発行にあたり、学生、教員、職員と多くの方にご執筆をいただきました。コロナ禍で自粛生活が強いられている今だからこそ、良い本と出会い、新しい世界を開くきっかけになることを願います。発行にあたり、ご協力いただきました皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

(K & N)